



ちよつと
おそばに...

シリーズ138

歌舞伎俳優

尾上 右近さん

1992年、清元宗家七代目である清元延寿大夫の次男として生まれる。曾祖父は名優と謳われた六代目尾上菊五郎、母方の祖父は昭和の映画スターである俳優の鶴田浩二。3歳の頃、曾祖父の「春興園劇子」を見て役者を志し、7歳で本名二代目尾上右近を襲名。12歳で05年から自主公演「研の巻」を主宰。18年には七代目清元栄寿大夫を襲名。以後、歌舞伎と清元の二刀流で活躍を続けている。

近年は映画やテレビドラマにも積極的に出演。とくに今冬は自身の出

演じた映画が立て続けに3本も公開。映画の世界への思い、歌舞伎の魅向けた意気込みについて語って頂きました。

歌舞伎座・壽初春
大歌舞伎に向けての思い

「壽初春大歌舞伎にご出演されます。その意気込みをお聞かせください。」
歌舞伎座の初春公演は、昨年(2018年)より出演させていただけ、今年で2年連続です。

「天竺の皆さんが数多く出演される一方で、30代前半を中心とした若手の出演者も増えています。」
お正月らしい華やかな「寿曾我お

「一は巳之助さんや天宮さんといった同世代で華を聞けますし、とくに「富貴同心」は、華人さんを主体に若手から先輩まで多くの歌舞伎役者が出演します。若手世代の一人として、自分も持てる力をしっかりと輝かせたいと考えています。」

「お正月らしい華やかな「寿曾我お」は、お太郎さんと「二人飯入」を演じることに、実は6年前に自主公演「研の巻」でも一度に演じたことがありまして、3人で「これから先もこの演目ですっ」と一緒に演じたことがたいねい。などと話していたんです。その夢が、なんとお正月の歌舞伎座で叶ってしまっ。これはちよつと



ではイカサマ博徒の「赤丹」役を。さらに12月公開の「ライオン・キング」日本版声優を務めるなど、映画界での活躍も目立ちました。